

大阪工業大学大学院

＜ロボティクス&デザイン工学研究科博士前期課程＞

2025 年度外国人留学生入試問題

ロボティクス&デザイン工学専攻

※本専攻は現在、「ロボティクスコース」「システムデザインコース」「空間デザインコース」の3コースで構成されています。

※2025年度入試当時は「プロダクトデザインコース」の名称で実施しており、現在は「空間デザインコース」に名称変更しています。

※ロボティクスコース・システムデザインコースは「志願者なし」等の理由により、出題された問題はありません。

専門科目 (プロダクトデザインコース) 問題用紙

以下の設問のなかから、3問を選択し解答しなさい。解答にあたっては、解答用紙に問題番号を記入すること。字数は、各問とも200字以上400字以内とする。

1. インタラクションデザイン(Interaction Design)とは、人と機器、システム、サービスとの「相互作用」を設計するプロセスのことである。その目的は、ユーザーが直感的に、効率的に、そして快適に情報技術を利用できるようにすることである。それではスマートフォン操作時には、どのようなインタラクションデザインが望まれるか？
2. 人間中心設計(Human Centered Design)は、システムの使い方に焦点を当て、人間工学やユーザビリティの知識と技術を適用することにより、インタラクティブシステムをより使いやすくすることを目的とするシステム設計と開発へのアプローチを意味する。それでは人間中心設計を実現するためにデザイナーは、どのような点に注意しデザインを行うべきか？
3. ユニバーサルデザイン(Universal Design)とは、年齢や性別、身体能力、文化的背景などに関係なく、できるだけ多くの人を使いやすく、快適に利用できるように設計されたデザインのことである。書体の設計において、ユニバーサルデザインを実現する場合、どのようなデザインが望ましいか？
4. ドナルド・ノーマンは「複雑さは日常生活に必要であり、生活の営みに合わせるために、テクノロジーは複雑でなければならない。ただし複雑さと混乱したものを区別しなければならない」と主張した。複雑な操作系であっても、混乱せずに使うことのできるインタフェースデザインの実例を示し、その理由を説明しなさい。
5. 書体のデザインは、視認性や美しさ、機能性を考慮し、特定の目的に合ったフォントを作成するプロセスである。書体のデザインにおいて、視認性と可読性を高めるためには、どのような点に注意をすべきか？

以上